



山元 眞

言葉の初め——真理

人は、その存在の初めには言葉を
持っていなかったのではないか。人
が人とかわりを持ち始めたとき、
互いにコミュニケーションをとるた
めに人は何をしたのだろうか。表
情、音（声）、態度で「思い」を伝
えたのではないか。次第に「音」が
「声」になり、「言葉」が生まれて
きたのではなからうか。こうして言
葉はコミュニケーションに欠かすこ
とのできない手段となった。

人は言葉を使って自分の思いを表
現し、それを聞く人は相手の考えや
感情を理解することになる。人と人
の間に言葉が存在し、その存在によ

って人と人のつながりができてい
く。人は言葉の使い方を学んでいっ
た。

言葉は真実を伝えるものであつ
た。人の「思い」と「言葉」は全く
一致していた。人の思いが言葉によ
って伝わるようになった。言葉を使
う人間はますます賢くなった。こう
して、人と人とのかわりには素晴ら
しいものになっていった。

人は、しかし、うそをつくように
なった。

「思い」と
「言葉」が
一致しない

「うそ」が存在する。人はごまかす
ことを覚えた。こうして人と人との
コミュニケーションが乱れていっ
た。こうして「真理」でない言葉が
語られるようになった。

言葉の力——いのち

言葉は不思議なものである。一言
で人は生きる勇気をもち、一言で人
は奈落（ならく）の底まで落ち込む
ことを体験する。言葉は、人を生か

すことも殺すこともできる。

人を生かす言葉が少なくなった。
言葉が乱れ、人の心が言葉によって
通じなくなった。言葉の乱れは単に
表面的なものではなく、それは人の
心の乱れを表している。

どうして言葉が乱れるのだろう
か。それは言葉より、周りの物を大
切にしてきたからではないか。大事
なものが見えなくなってしまうた。
大事なものの、人の心が。言葉よりも

どのようにして伝わるのか

物が、心より物が大切になってきた。

独り言であれば、それは何を言お
うと他人には関係がない。自分の中
でその言葉が繰り返されるだけであ
る。しかしひとたび言葉が人に対し
て発せられると、それはその人に大
きな影響を与える。真理の言葉は、
心から出た言葉は、人を「生かす」。

人として生きる——道

人は一人では生きていけない。人

とのかかわり、コミュニケーション
の中で生きていく。人はその「道」
——コミュニケーション——を歩む。

乱れた言葉を使っているうち、人
は真の言葉を失っていく。言葉を失
うことは、心の交流がなくなること
であり、その結果、人との関係を絶
つことになる。こうして人は孤独に
なり、道を誤るようになる。そして、
それは道をなくすことにつながる。

道があつて迷い、間違つた道を選
ぶのはまだ

よい。それ
でもまだ道
を歩んでい

るのだから。しかし、道がなくなつ
てしまったらどうなるのだろう。道
に迷って袋小路に迷い込んでしま
うより、道のない砂漠の中の一点に
いることの方がずっと怖い。そこでは
死ぬほどの「孤独」を感じるであろ
う。

神の子が言葉となった

人は真理の言葉に出会うと、生き
る力がわき、孤独から解放され、人

としての道（コミュニケーション）
を歩むことができる。言葉そのも
の、言葉自身が届くことは素晴らし
い。

神が「言葉自身」を送って二千
年。言葉は「物」ではない。言葉は
「生き者」。言葉「自体」ではな
く、言葉「自身」が生きている。そ
の言葉自身が人に届いたのである。
こうして、人は真の言葉と出会い、
真の人と出会い、真の神と出会うこ
とになった。

イエス・キリストによる救いを記
念する紀元二〇〇〇年を迎えようと
している「今」という時代は、言葉
を使う人間にとつて、真理の言葉と
再会するためのターニングポイント
になるのではなからうか。

「伝えよう——道・真理・いのち
のイエスを」。言葉を「伝える」た
めには、それがどのようにして「伝
わる」かを考えることが優先する。
真の言葉のみが人に「伝わる」。真
に生きることによってのみ「伝え
る」ことができる。

（福岡カトリック神学院院長）